

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500076		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム桃寿園		
所在地	奈良県橿原市北越智町345		
自己評価作成日	平成30年10月9日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2970500076-00&PrefCd=29&Vers
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成30年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーとし、ご利用者の自立を重んじながら、「ただお世話をする」ではなく「自立を支援するように働きかける」を念頭に入れ支援を行っています。ご利用者同士の関係性を配慮し、席の配置や外出の際のメンバー選定に関しても、孤立しないようまた、皆様が快く過ごせるように行っています。食事に関しては、四季折々の食材を選び、風景だけでなく、食事で四季を感じて頂く様配慮しています。また、敬老の日などは、お寿司を提供しお祝いをしています。地域の行事にも、積極的に参加し、地域住民・ボランティアの方々との交流を図っています。また、併設している特別養護老人ホーム・診療所との連携を密にし、様々な行事への参加や医療面のフォローを可能にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、法人が運営する特別養護老人ホームと併設されており、四季折々の風情を肌で感じ、心静かに過ごせる丘陵地に位置している。“利用者は支援される人、職員は支援する人”といった関係ではなく、“共に暮らす存在”として、楽しみながら、日々のリレーション等で利用者に常に寄り添い、注意深く観察し、細かい動作、傾向を的確に把握し、介護日誌を通して、パーソン・センタード・ケアの仕組みが確立されている。運営推進委員会に出席の家族からの意見に基づいた避難訓練、また、最近の豪雨等想定外の災害への備えとして、施設の周辺環境に目を向け、裏山のがけ崩れやため池の堤防決壊への対処等広域災害の対策に配慮している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」を理念とし、ご自身のペースで自宅で生活しているような環境づくりを意識しながら職員各々実施しています。	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」の平易な理念を玄関に、笑顔で楽しそうな老男女のイラストと共に掲げている。職員や利用者は自然体と一緒に食事やレクレーションを実践している。家族や訪問者にも事業所の理念がわかりやすく確認できる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園・小学校・高校の運動会や文化祭に参加しています。また、地域の道の駅などに買い物に出かけたりしています。	近くの高校の文化祭や幼稚園の運動会に参加し、若い人との交流がある。例年の猛暑の夏祭りを気候の良い秋祭りに移し、自治会や近隣の人達を招き祭りを楽しんでいる。併設の居宅介護事業所の認知症教室の実習生を受け入れている。地域のボランティアの演奏会もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、併設の居宅事業所がランチ事業として、月に一度講習会などを開催しており、その際に当事業所の事例などを参考にされています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の運営推進会議でグループの実状などを紹介し、構成員の皆様とどのようにしたら、よりよいサービスが実施できるかなどを、話し合っています。	運営推進会議は、市担当課職員と地域包括支援センター職員が半年ごとに交代で参加し、2ヶ月に1回開催している。会議では、行事内容の説明や意見交換を行ない、今回はインフォーマルサービスの説明や参加者の認知症の対応などが話し合われた。家族からの要望で次回は火災訓練を運営推進会議開催日に行う予定をしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員派遣事業を受け入れており、毎月訪問して頂き、その都度貴重な意見を聞き、サービス向上に努めております。	主に法人本部が市と連携している。市介護保険課の派遣事業として毎月2名の相談員が来訪して職員と違った目線で利用者からの情報を捉えて報告を受けている。運営推進会議の予定や会議録を市担当者に送付している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に参加し、事例検討し、拘束の理解を深め支援しています。	権利擁護の視点から当然には開設以来身体拘束を行った経験はなく、同意書記録もない。法人が行う「身体拘束廃止委員会」の研修に参加し、理解し共有している。急な石段に面している玄関が施錠していないため、安全確認のため人の出入りを感じするセンサーが鳴り注意を促している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、園内勉強会を実施し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見制度を利用されている方が居られ、その方の支援から学んでいました。今後も、継続して学んでいきたいと思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をかけ丁寧に説明し、納得・理解して頂く様努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、ご家族様の面会時に意見などを頂戴し、また、市の相談員による外部からの意見を踏まえ運営に反映するよう努めています。	管理者が毎月の利用料請求書を家族に送付する時に連絡票を同封している。家族の面会時に職員が要望や意見を聴き取り記録している。面会は24時間対応しており、面会簿は取って備えていない。腰痛の利用者の家族からリハビリ治療の希望があり、リハビリ治療機関を紹介し通院されている。	日々実践しているサービス内容が十分家族に伝わっていないように思われる。日常生活の様子が伝わる写真と文章を添えて家族に送り、理解していただくとともに、意見や要望が聴ける工夫の取組みを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や随時職員と話す機会を設け、提案などを聞き運営に反映しています。	毎朝、夕に申し送りをしている。管理者は日常的な業務を職員と一緒にいる中で、利用者が必要とする衣類、利用者同志の相性と席決め、外出時のお化粧品と似合う色目の衣服選びなどの提案や意見を聴いている。月2回傾聴ボランティアの意見も聴き運営に活かしている。	管理者は職員と随時の面談や、日常的な業務の中で職員からの意見や提案を聴いているが、職員と意見や提案を話し合える場を設け、定期的に行う取組みを期待する。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や日程の意見を毎月聞き、勤務表などに反映しています。また、職員同士の関係性も円滑にいくよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内勉強会を実施し、参加を促すスキルアップの手助けになるよう努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加し、ネットワーク作りに努め、情報交換などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に事細かにご利用者の生活状況を確認したり、実際に居住スペースを拝見したりしながら、サービスに反映できるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や、今までに苦労された事を親身に聞き、当園を利用する事により、安心して頂き、同じ情報を共有することにより、良好な関係を築けるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントしっかりとり、その中から必要な事象について家族様と話し合い、ご利用者・ご家族様とも納得頂くサービスの提供に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様の細かな変化などを見逃さず、ご利用者様が訴える前に気付けるよう日頃から観察し、コミュニケーションをとり、安心して生活出来るよう支援しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や一緒に外出などをして頂き協力を得ながら、家族様と一緒に支援を行っていきます。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などを積極的に受け入れ、友人の方にも面会して頂く様家族様にも促しています。	携帯電話で友人と話す方や友人の来訪者や信仰宗教の信者の方の来訪があり、馴染みの関係の継続を支援している。自宅へ帰り家族と食事する方、スーパーへ買い物に行く方、たこ焼き屋へ行く方など、それぞれの馴染みの場所を持っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように、席の配慮をしたり、会話がスムーズに行くよう職員が間に入ったりと、それぞれの間人関係を把握対応しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も継続して相談支援を行い、気軽に相談できるよう常に窓口を開いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中で、1人ひとりの思いを汲み取り、要望などがあれば、買い物や行事などに反映しています。また、日頃の支援には、家族様に連絡しカンファレンスを行い、最善の方法を検討しています。	利用開始時に本人や家族とカンファレンスを行い、希望や思いを丁寧に聴き把握している。日常生活の中で知り得た利用者の好きなことや嫌いな事などは業務日誌に記録し職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基本に、希望に沿った支援を実施する為に、家族様やご利用者様から、情報を得ています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察・記録し、少しの変化にも敏感に感じ安心・安全に生活して頂くよう支援します。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、カンファレンスを開き、より良いケアが出来るよう職員同士話し合い、チームケアとして支援できるよう情報共有を行い、介護計画の作成を行っています。	年1回家族、ケアマネジャー、職員の参加でカンファレンスを開き、プランを見直し、次の介護計画に反映させている。6ヶ月に1回モニタリングし、プランの評価を行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌・申し送りノートを通じ、職員間で情報の共有を図り、口頭での伝達や意見交換を行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、他事業者や、地域の協力を得て連携し対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をさらに発掘できるよう、地域の方達にも意見を聞き、活用できるよう努めています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当園を利用される前より、利用されていたかかりつけ医を第一優先とし、家族様・御利用者様にも、了解を得て連携を図っています。	協力内科医師が月2回訪問診療を行っている。歯科医師の往診もある。利用者の健康状態に変化があれば家族へ電話連絡をしている。外部の医療機関への受診は家族の付き添いが原則としているが、家族が出来ない場合は職員が付き添っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や健康状態をかかりつけ医・看護職に報告し、適切な医療支援が出来るよう連携を図っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者（地域医療連携室など）と密に連携を図り、良好な関係性を築くよう日頃から、医療の相談などを行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前回同様見取りの事例がない状況です。ただ、現在の御利用者は高齢であり、今後の状態次第では、看取り希望の方もでてくると予想されますので、見取りの出来る環境整備に努めます。	看取りのマニュアルは作成しているが、看取りの事例はない。現在の利用者は軽介護度の方が多く占めており、近い将来には看取り介護を予想しているが、重度化した場合には併設の特養へ移し対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、目の届く所に設置し意識付けを行ってきた事により職員全体に対応が行き渡っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しています。また消防や行政の指導に従い、防災に努めています。	緊急時マニュアルを作成し近隣職員への連絡網を目の届く所に掲示し緊急時に備えている。消防署の指導を受け、職員の手薄な夜間帯に特養と連携し2階の窓から屋根伝いの避難訓練を行っている。裏山のがけ崩れやため池の決壊などの災害に備えて、土嚢を用意している。併設の特養に飲料水や食糧を備蓄している。運営推進会議の場において非常時の支援を近隣住民に依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分配慮し、個々によって言葉かけをかえたり、また友達感覚には決してならないよう配慮しています。	日常の利用者への言葉かけに気を配り、プライバシーを損ねないように心がけている。部屋出入り口の錠を内側からかける方が2～3人おられる。入浴時同性介助を希望される方には対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を常日頃から会話の中などから汲み取り、尊重するよう心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時やレクリエーション時などに、したい事や食事なら食べたいものを聞いたり、状態に応じて本人のペースに合わせ臨機応変にスケジュールを変更したりしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時や、面会時、自宅で生活していた時に使用していた物や服などを持ち込んで頂き、本人や家族にも相談しながら着衣を選んで頂いています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好き嫌いを把握し、食べれない物に関して個別で対応しています。また、食事の準備や片付けを共に行い、一緒に食卓を囲んでいます。	週2回利用者と一緒に食材の買い出しに行き、利用者の好みで、サバを鮭に変更したり、カレーを肉じゃがに変えるなど好みに応じている。栄養面を気遣う家族の要望に添うよう配慮している。味噌汁は鯉ぶしからだしをとっている。誕生日にはチラシ寿司やケーキでお祝いしている。時には各自好きな物を食べる外食を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を観察し、不足している方は記録を継続して行い、必要量の摂取を支援します。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後それぞれの状態に応じて、ケアを行っています。希望される方には週に1度、歯科往診による口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録しその後検証を行い、個別の状態に応じた対応を行い、自立できるように支援します。	昼間は排泄チェック表から排泄リズムを把握し、椅子の立ち上がりの様子などを見守り適時にトイレ誘導を行っている。夜間にオムツの方はいないがポータブルトイレ使用の方が4名おられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数は決めています、本人の希望にそって時間や日にちを設定しています。	入浴は週2～3回行っており、毎日3～4名が入浴している。個浴で、ひとりごとに湯を入れ替えている。入浴を嫌がる方には時間を決めずタイミングを見計らい誘導している。冬至にはゆず湯で、普段は入浴剤で入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝時間が違い、本人のペースに合わせ就寝して頂き、安眠できるよう環境を整えています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を理解し、薬の変更や追加の際にはその都度用法・副作用について申し送っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にあわせたレクリエーションや趣味を生かした行事などを行い、対応しています。また、御利用者には花の水やりや、食事準備などの役割をつけて実施してもらっています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足などの行事の際には、家族様などにも協力を得て外出支援を行っています。また、併設の特養の方達と共にドライブに出かけたりしています。	地域との交流を大切にして幼稚園の運動会や市の敬老会に参加している。特養の屋上園芸やベランダで野菜作りの見学を兼ねて外気浴を楽しんでいる。食材などの買い物にもよく出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて金銭管理している事を伝え、嗜好品などの希望のものを購入できるよう支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話をかけて頂いたり、手紙のやり取りができるように職員により支援を行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾を飾ったり、不快を感じないよう御利用者に聞き取りをしたりと、配慮しています。食事には、外が眺められるようカーテンを開けたりと配慮しています。	居間の窓から四季の景色が望め季節感が楽しめる。12月にはクリスマスツリーを3月にはひな飾りを利用者と一緒に組み立て居間に飾りつけを行っている。初夏には鯉のぼりの塗り絵を飾るなど、季節ごとの利用者との共同作品が壁面を飾っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御利用者同士でも、気の合う方への席の配慮や外が眺められる所にソファを設置するなどして配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の面接の段階で、本人の居住スペースを見せて頂き、なるべく居住スペースに近い居室が出来るよう本人・家族様と相談しながら居室作りを工夫しています。	使い慣れたタンス、ベッド、日用品、冷蔵庫、テレビなどを持ち込む方もおられる。家族の写真を飾ったり、好みの観葉植物を置いたり、フローリングを畳に替えている方もあり自由な居室づくりとなっている。夫婦が各居室で生活されている方もある。	地震発生時、家具等の転倒による被害を防ぐためにも、家具等を固定する対策が求められる。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂・トイレ・居室の場所を理解出来るように装飾を飾ったりし、自立した生活が送れるように工夫しています。		